

<座長> 大石 亜希子 (千葉大学)

- 1) 日本の配偶者サーチの伝統と変化 .....永瀬 伸子 (お茶の水女子大学)
- 2) 労働市場における格差と結婚による階層選別—東アジア諸国における実証分析—  
.....佐々木 昇一 (神戸大学)
- 3) 一般用マイクロデータ就業構造基本調査版の概要 .....伊原 一 (統計センター)  
田中 雅行 (総務省統計局)  
北林 三就 (統計センター)

## F-2 経済

<座長> 渡辺 真知子 (明海大学)

- 1) 日本の人口政策の人口経済学的分析 .....大塚 友美 (日本大学)
- 2) 年齢分布と金融政策の有効性 .....小黒 曜子 (明海大学)
- 3) 年齢構成と貿易開放度に関する地域別分析 .....衣笠 智子 (神戸大学)  
福本 幸男 (大阪経済大学)
- 4) 仮説検定による組み合わせ分析法—修正ウィーバー法との比較研究—  
.....井上 希 (青山学院大学)  
(鈴木 透 記)

## ヨーロッパ人口学会2018年大会

2018年ヨーロッパ人口学会大会 (European Population Conference 2018) が2018年6月6日～9日にかけてベルギーの首都ブリュッセルで開催された。ヨーロッパ人口学会 (European Association for Population Studies) は1983年に設立された学際的な国際学会であり、なかでもヨーロッパにおける人口問題について精力的に研究活動を行っているものである。ヨーロッパ人口学会は2年毎に大会を開催しており、本大会はオーストリアのウィーン (2010)、スウェーデンのストックホルム (2012)、ハンガリーのブダペスト (2014)、ドイツのマインツ (2016) に続いて開催されたものである。本大会では「人口、多様性と不公平 (Population, Diversity & Inequality)」の解明が共通の主眼とされた。

大会はオープニングセッションにおける2つの基調報告に始まり、会期中の3日間で14に大別された多岐にわたる各テーマ (「出生力」、「性・再生産行動」、「家族と世帯」、「ライフコース」、「高齢化と世代間関係」、「国内人口移動と都市化」、「国際人口移動と移民人口」、「健康、幸福と不健康」、「死亡と寿命」、「歴史人口」、「人口データ及び手法」、「経済、人的資本と労働市場」、「人口政策」、「開発と環境、空間」) について、合計121のセッション (約570の口頭報告) と約150のポスター報告が行われた。また、8日には2名の2016年ヨーロッパ人口学会賞受賞者による特別講演があり、いずれにおいても活発な研究交流が行われた。

当研究所からは福田節也 (企画部室長) と菅桂太 (人口構造研究部室長) が参加し、それぞれ研究報告を行った。 (菅 桂太 記)

## 韓国人口学会 (PAK) 参加報告

6月8日に韓国ソウル国立大学にて韓国人口学会の年次大会 (第1回) が開催され、同学会からの

招聘で国立社会保障・人口問題研究所より人口構造部長の小池司朗と筆者である国際関係部第2室長の是川夕が参加した。参加したのは「人口減少の国際比較」に関するセッションであり、是川より日本の将来人口推計を踏まえた日本の人口減少のトレンドとそれによる社会経済的影響に関する報告、小池からは人口減少の地域人口に対する影響に関して報告が行われた。また、ドイツから Koblenz 大学の Bernhard Köppen 教授が参加し、ドイツの人口減少について報告が行われた。それを受け韓国側からは韓国統計局から Sooyong Kim 氏が韓国の地域人口の動向について報告が行われた。なお、同セッションは日本において地方創生のきっかけとなった「地方消滅」(増田寛也編著 2015)が韓国で翻訳され大きな議論となったことを受けたものであり、日本の人口減少に対する関心の強さを感じるものであった。(是川 夕 記)

## 「中日連携による高齢化社会への対応：ロードと未来」国際学術フォーラム

2018年6月9日に、中国社会科学院日本研究所と日本学術振興会の主催による「中日連携による高齢化社会への対応：ロードと未来」国際学術フォーラムが中国・北京の民族飯店で開催された。本フォーラムは『日中平和友好条約』調印40周年記念の一環として行われた。日本側は厚生労働省、国立社会保障・人口問題研究所、経済産業研究所、東京大学、中央大学から、中国側は中国国家発展改革委員会、民政部、中国人民大学、清華大学などからと、両国の政府機関、大学、研究機構に所属する専門家、及び中国の高齢者介護分野の第一線で活躍する経営管理者が出席し報告を行った。

当研究所からは遠藤久夫所長、林玲子国際関係部長、中川雅貴国際関係部第3室長、別府志海情報調査分析部第2室長、佐々井司情報調査分析部第3室長が参加し、それぞれ以下の口頭報告を行った。(基調講演)遠藤所長「超高齢国家日本における医療制度改革」、(以下、一般報告)林部長「介護需要・供給の日中比較」、別府室長「日中における人口高齢化と日本の高齢期の健康」、中川室長「高齢者の居住地移動と中国への含意」、佐々井室長「日中間の人口交流の変遷から日中連携を考える」(プログラム順)。プログラムが盛り沢山であったため、いずれの報告も討論者からのコメントのみで質疑応答の時間がとれなかったのは少々残念であった。なお、当日の報告内容をまとめた本が中国社会科学院日本研究所の「平成日本研究シリーズ」として年内を目途に出版される予定である。

(別府志海 記)

## 比較家族史学会第63回春季研究大会

2018年6月16日(土)と17日(日)の二日間、岡山大学教育学部において比較家族史学会第63回春季研究大会が行われた。今大会では1日目の午前に自由報告、1日目午後から2日目にかけて「人口政策」をテーマとしたシンポジウムが行われた。シンポジウムのプログラムは以下の通りであった。本大会へは研究所から鈴木副所長、守泉室長および筆者が参加した。

1日目(6月16日土曜日)

趣旨説明 小島 宏(早稲田大学)

「出生・家族政策の概念、理論、比較史」

「近世東北の人口政策」

「近世西南の人口政策—子返しと捨子・その背景と対策—」

小島 宏(早稲田大学)

高橋 美由紀(立正大学)

太田 素子(和光大学)